



## 2026年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月13日

上場会社名 株式会社エスユース 上場取引所 東  
 コード番号 6554 URL <https://www.sus-g.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 斎藤 公男  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼最高財務責任者 (氏名) 浅田 剛史 (TEL) 075-229-7400  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年9月期第1四半期の連結業績 (2025年10月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年9月期第1四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期第1四半期	3,924	6.6	341	△9.8	357	△8.6	294	11.6
(注) 包括利益 2026年9月期第1四半期	3,681	20.5	379	83.7	390	70.9	263	70.2

(注) 2026年9月期第1四半期 287百万円( -9.5%) 2025年9月期第1四半期 262百万円( -73.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年9月期第1四半期	円 銭	円 銭
2025年9月期第1四半期	32.80	—
	29.84	29.33

(注) 2026年9月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
2026年9月期第1四半期	百万円		百万円		%	
2025年9月期	6,264		4,253		66.0	

(参考) 自己資本 2026年9月期第1四半期 4,132百万円 2025年9月期 4,226百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年9月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年9月期	—	0.00	—	45.0	45.0
2026年9月期(予想)	—	0.00	—	50.0	50.0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2026年9月期の連結業績予想 (2025年10月1日～2026年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
第2四半期(累計)	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,017	7.5	634	△22.4	665	△22.3	486	△16.3	54.54
	16,902	12.6	1,365	12.6	1,397	11.0	991	8.3	111.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年9月期 1Q	9,037,600株	2025年9月期	9,037,600株
② 期末自己株式数	2026年9月期 1Q	60,384株	2025年9月期	117,184株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年9月期 1Q	8,977,216株	2025年9月期 1Q	8,838,416株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により個人消費に持ち直しの傾向が見られることから、緩やかに回復しております。しかし、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクや、物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響、金融資本市場の変動等、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、ソリューション事業におきましては、エンジニア派遣、IT請負で受注が増加し、増収増益となりましたが、育成と稼働の適正なバランスを重視した稼働率の調整を行ったため、売上総利益率は低下いたしました。コンサルティング事業におきましては、収益基盤の再構築により減収減益となりましたが、売上総利益率は改善いたしました。AR/VR事業におきましては、AI領域では受注が堅調に推移したものの、AR/VR領域において前年同期に計上した大型案件の反動減があったため、減収減益となりました。販売費及び一般管理費におきましては、従業員エンゲージメントの向上を目的とした福利厚生施策費や、外部リソース活用を意図した業務委託費が増加いたしました。これらにより、営業利益は前年同期比で減益となりましたが、期初中間期業績予想に対する進捗率は53.9%となり、堅調に推移しております。なお、HRコンサルティング事業の譲渡に伴う事業譲渡益の計上等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を上回りました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高3,924百万円（対前年同期比6.6%増）、営業利益341百万円（対前年同期比9.8%減）、経常利益357百万円（対前年同期比8.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益294百万円（対前年同期比11.6%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① ソリューション事業

派遣業務におきましては、IT関連企業及び国内製造業をはじめとする主要取引先において、エンジニア不足が常態化しており、旺盛な人材需要が継続いたしました。

このような状況の中、当社では継続的なエンジニア教育を通じた高付加価値化に注力してまいりました。あわせて、更なる成長に向けた重点施策として、エンジニアを対象とした生成AIツール導入によるAIスキルの向上や、上流案件への参画を推進するビジネスパートナーとの連携施策に着手しております。稼働率につきましては、戦略的なエンジニアの育成と稼働の適正なバランスを重視いたしましたが、期初計画を上回る水準で推移しております。この育成重視の姿勢がエンジニアの市場価値向上に直結し、派遣単価は前年同期比で4.7%上昇する結果となりました。採用面では、新卒及び経験者採用ともに概ね計画通りに進捗し、在籍エンジニア数は着実に増加いたしました。これら一連の施策の結果、売上総利益率は低下いたしましたが、前年同期を上回る売上総利益を確保いたしました。

請負業務におきましては、IT請負において自動車関連業界向けの案件が牽引役となったことや、東日本エリアにおける受注が伸長したこと等により、大幅な増収となりました。

社内行事等の従業員エンゲージメント向上を目的とした福利厚生施策費や、ビジネスパートナー活用施策費を計上したこと等により、販売費及び一般管理費は増加いたしましたが、売上総利益の伸長がこれらを補完し、セグメント利益は増加いたしました。

これらの結果、ソリューション事業の売上高は3,692百万円（対前年同期比11.4%増）、セグメント利益は364百万円（対前年同期比2.4%増）となり、2025年12月末時点の在籍エンジニア数は2,132人、当第1四半期連結累計期間の稼働率は96.1%となりました。

#### ② コンサルティング事業

ITコンサルティングサービス市場におきましては、経営基盤の強化を急ぐ中堅企業を中心に、SAPのクラウド型ERPへの需要が一段と高まっております。特に Fit To Standard の考え方方が浸透したことで、効率的なシステム導入を図る動きが加速いたしました。こうした中、専門的な知見から顧客の変革に寄り添い、伴走できるコンサルタントへの期待は非常に高く、旺盛な人材需要が継続しております。

このような状況の中、当社におきましては、自社ITコンサルタントとビジネスパートナーの最適なリソースバランスを意識し、案件の戦略的な選択を継続してまいりました。この取り組みにより、前年同期比で減収減益となつた一方、原価管理の徹底により売上総利益率は上昇いたしました。

ソリューション事業との営業面の連携強化により、新規顧客は増加しております。あわせて、部内体制の見直しを

通じて営業リソースを確保し、案件獲得を加速させる体制の整備を進めております。引き続き、収益基盤の再構築に注力し、収益性のさらなる向上に取り組んでまいります。

これらの結果、コンサルティング事業の売上高は153百万円（対前年同期比42.4%減）、セグメント利益は20百万円（対前年同期比31.2%減）となりました。

### ③ AR/VR事業

最先端IT領域におきましては、深刻な労働力不足を背景としたDX投資の底堅さに加え、生成AI技術の飛躍的進展により市場拡大が継続しております。特にXR領域では、従来のエンターテインメント分野に加え、産業・実務領域におきましても新たな需要が顕在化しつつあり、社会実装に向けた多様な製品やサービスが具現化のフェーズを迎えております。

このような状況の中、当社のAR/VR事業における最先端技術への取り組みは、当社グループのブランド価値向上に寄与しております。これが優秀な人材の採用・定着に資するとともに、高い技術力を背景とした他セグメントでの受注機会創出を牽引する等、グループ全体の成長に寄与しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、大手メーカー等の既存派遣先から継続して案件を獲得したほか、メタバースやVRコンテンツ、デジタルツイン、及びAIを活用したシステム開発等を受注いたしました。AI領域におきましては、継続案件を安定的に受注したことにより加え、AIエージェントに関する案件の獲得も始まりつつあり、前年同期比で増収となりました。一方、AR/VR領域では、既存案件のアップデート対応等の継続案件を受注したほか、複数顧客の共通課題を解決するサービスやパッケージの開発を計画する等、将来的な発展に向けた準備を進めてまいりましたが、前年同期に計上した大型案件の反動減もあり、前年同期比で減収となりました。

これらの結果、AR/VR事業の売上高は55百万円（対前年同期比27.8%減）、セグメント損失は35百万円（前年同期は8百万円の損失）となりました。

### ④ その他

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく特例子会社である株式会社ストーンフリーの売上高は、就労定着支援事業の報酬単価の上昇により、前年同期比で増加いたしました。また、再生医療支援事業を行うプライムロード株式会社は、細胞培養加工受託事業の開始に伴う、同施設の稼働準備費用を計上したことにより減益となりました。

これらの結果、売上高は22百万円（対前年同期比5.5%増）、セグメント損失は8百万円（前年同期は0百万円の利益）となりました。

## (2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

### ① 資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は6,264百万円となり、前連結会計年度末より450百万円の減少となりました。流動資産合計は5,244百万円となり、前連結会計年度末より325百万円の減少となりました。これは主に現金及び預金が263百万円、売掛金が134百万円減少したことによるものであります。固定資産合計は1,019百万円となり、前連結会計年度末より125百万円の減少となりました。これは主に繰延税金資産を含む投資その他の資産が129百万円減少したことによるものであります。

### ② 負債の状況

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は2,010百万円となり、前連結会計年度末より386百万円の減少となりました。流動負債合計は1,935百万円となり、前連結会計年度末より386百万円の減少となりました。これは主に未払金が399百万円増加した一方、賞与引当金が515百万円、未払法人税等が259百万円減少したことによるものであります。固定負債合計は前連結会計年度末とほぼ同額の75百万円となりました。

③ 純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は4,253百万円となり、前連結会計年度末より64百万円の減少となりました。これは主に剰余金の配当401百万円を行った一方、親会社株主に帰属する四半期純利益294百万円、新株予約権の行使に伴う自己株式の交付43百万円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の連結業績予想につきましては、2025年11月14日に公表いたしました予想値から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	3,407	3,144
売掛金	2,035	1,900
仕掛品	13	49
原材料	－	3
その他	115	147
貸倒引当金	△0	△0
流动資産合計	5,570	5,244
固定資産		
有形固定資産	398	405
無形固定資産	28	26
投資その他の資産		
その他	721	591
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	717	588
固定資産合計	1,145	1,019
資産合計	6,715	6,264
<b>負債の部</b>		
流动負債		
未払金	940	1,340
未払法人税等	272	12
賞与引当金	515	－
役員賞与引当金	35	－
その他	558	582
流动負債合計	2,321	1,935
固定負債		
資産除去債務	60	60
その他	15	15
固定負債合計	76	75
負債合計	2,397	2,010
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	436	436
資本剰余金	446	423
利益剰余金	3,433	3,318
自己株式	△89	△46
株主資本合計	4,226	4,132
非支配株主持分	91	121
純資産合計	4,317	4,253
負債純資産合計	6,715	6,264

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)
売上高	3,681	3,924
売上原価	2,619	2,841
売上総利益	1,061	1,082
販売費及び一般管理費	682	740
営業利益	379	341
営業外収益		
助成金収入	11	15
その他	0	0
営業外収益合計	11	15
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	390	357
特別利益		
事業譲渡益	-	70
特別利益合計	-	70
税金等調整前四半期純利益	390	427
法人税、住民税及び事業税	1	2
法人税等調整額	127	136
法人税等合計	128	139
四半期純利益	262	287
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△0	△6
親会社株主に帰属する四半期純利益	263	294

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	262	287
四半期包括利益	262	287
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	263	294
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	△6

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソリューション事業	コンサルティング事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,315	266	77	3,659	21	3,681
計	3,315	266	77	3,659	21	3,681
セグメント利益又は損失(△)	356	30	△8	378	0	379

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソリューション事業	コンサルティング事業	AR/VR事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,692	153	55	3,901	22	3,924
計	3,692	153	55	3,901	22	3,924
セグメント利益又は損失(△)	364	20	△35	350	△8	341

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	19百万円	20百万円